

# 絆深めた仲間 背中押され

姫路市長 石見 利勝さん(77)＝1960年卒



一加古信志撮影

いわみ・としかつ 1941年生まれ。京都大学理学部卒、東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。同大学助手、建設省建築研究所研究員、筑波大学助教授、立命館大学教授を経て、1998年に立命館大学政策科学部長・政策科学研究科長。2003年に姫路市長に初当選した。

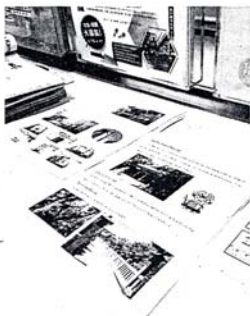
## 「観光」研究 市に政策提言

姫路西高の生徒たちは課題研究で、姫路市の観光についての調査・研究にも取り組み、市に政策提言した。

昨年度は「市民や観光客にとって駅周辺のトイレはわかりにくい」「バス情報が不足している」といった現状を調査。トイレの位置やバスの利用状況などを基に、観光マップを制作した。また、美しい海と新鮮な海の幸が楽しめる同市の家島の魅力を世界に向けて発信しようと外国

人向けのPR動画制作にも挑戦した。これらの研究成果を3月、市観光交流局の職員にプレゼンテーションした。生徒たちが英語で作った「家島港ふれあいプラザ」の案内や神社での参拝作法を紹介するチラシが、市の観光案内所などに置かれている。

姫路西高生が作った家島をPRする英語のチラシ＝兵庫県姫路市の観光案内所で



## 姫路西高校

兵庫県姫路市

■ほっとけない  
いつも誰かしら、声をかけてくれた。西高に入学すると、偶然前と後ろの席になった2人が学年1、2位を競うほどの秀才

■親子で市長に  
父・元秀さんは1946年から67年まで戦後の初代姫路市長だ。周囲の「息子のお前も、ゆくゆく市長になるのだろ」といふ雰囲気は嫌で、学者にならなかった。東京工業大学の助手を経て、筑波大や立命館大で教えるながら、各地の都市計画に携わった。フィールドワークを重ね、その街の歴史や風土、食べ物などの良きを見ては、それをどう伸ばしていくかを考えていた。

「親子で市長に」  
父・元秀さんは1946年から67年まで戦後の初代姫路市長だ。周囲の「息子のお前も、ゆくゆく市長になるのだろ」といふ雰囲気は嫌で、学者にならなかった。東京工業大学の助手を経て、筑波大や立命館大で教えるながら、各地の都市計画に携わった。フィールドワークを重ね、その街の歴史や風土、食べ物などの良きを見ては、それをどう伸ばしていくかを考えていた。

## わたしの母校

4期16年にわたり姫路市長を務めた石見利勝さん(77)は今期で引退をする。振り返れば、兵庫県立姫路西高校時代に絆を深めた仲間たちがいつも背中を押してくれた。「多くの人たちに出会い、今までやってこられた。本当に感謝している」

ただ、物理や数学の高度な参考書や問題集を見せられ「おい、石見、これはやったか？ あれはやったか？」と常に尻をたたかれた。「ほっといてくれへん。周りの世

話になってきた」と振り返る。2人に促されては刺激され、勉強に励むことができた。見た目が怖かった英語の山田利一先生を「入鬼さん」と陰で呼んでいた。試験の出来が悪かったら、怖い顔して「これでも食べろ」とチョコレートをつきだしてくる。でも、関係代名詞を使った文章の作り方の説明など、指導は丁寧でわかりやすかった。

「歴史の宮崎徹二朗先生は熱かった。『東郷平八郎の丁字戦法はこうだ、いい、そんな時代だった。』と目露戦争(1904〜05)で日本がロシア艦隊を破った日本海海戦を説明してくれた。ヨーロッパ史では、第2回ポエニ戦争(紀元前18〜201)でカルタゴの将軍が山岳を進んだ史実を、「悲劇の名将・ハンニバルのヒレネー越え」とドラマチックに語った。面白くて授業が楽しみだった。元海軍中尉だったそうで「人間は1週間くらい食べなくても生きてられる」と話していた。まだ戦争が遠くない、そんな時代だった。

「そして2008年、全国的に不景気で姫路も企業の撤退が相次いだ。『姫路が沈みよ、何をしても、何をしても』。地元からの市長に推す声が次々と寄せられた。背中を押したのは西高時代に出会った同級生たちだった。そして西高時代の「友達友達」らが応援してくれた。

姫路駅周辺の基盤整備や姫路城の改修など手がけたことは数々あるが、印象深い事業は「地域夢プラン」だ。自分たちが

引退後は兄の所有する登り窯を使って、「陶芸をやってみよう」。これからも「同級生たち」と一緒に新生活を楽しんでいくつもりだという。

「姫路西高校は今回で終わります。5月からは大阪府立四條畷高校です

火 水 木 金 土  
ふるさと カルチャー ちよい旅 見・聞・楽 学び・育つ・挑む